

保護司国際研修に参加して

札幌保護観察所 保護司 野川 順子

平成28年度第1回保護司国際研修に参加させていただきました。札幌保護観察所から参加の打診をいただいた際には、研修といっても聞いていれば大丈夫ですというお話でしたので参加をお受けいたしました。お話をいただいて間もなく国連アジア極東犯罪防止研修所（アジ研）の方から御連絡いただき、事例の提出が必要とのことでした。少年の処遇が研修のテーマということでしたので、今まで担当した事例のなかから、いろいろな思いの詰まった事例を選び、慌ててメールにて提出させていただきました。

事前に札幌においては、海外からの国際研修参加者を囲んでアジア刑政財団開催の意見交流会があり、参加させていただきました。5名の研修員の方々とお会いいたしました。そこでは、英語で自己紹介するのが精一杯でした。保護司のことをボランティア・プロベーション・オフィサー（VP0）ということも会話の中で知りました。

研修当日までには、アジ研の方々、札幌保護観察所の皆様からサポートをいただき大変心強く当日を迎えることができました。

アジ研においての国際研修は、2日間にわたりました。研修は英語で開始が伝えられ、すべて英語で研修が行われました。参加者全員がヘッドフォンをつけ、同時通訳がなされるという国際感あふれるものでした。1日目は全国各地から参加の保護司9名が事例や活動の発表を行いました。北海道ということもあってかトップバッターでの発表で大変する中、持ち時間5分も時計を見る余裕もなく終わってしまいました。私の発表した事例は少年院を仮退院した少年（男性）のケースでしたので「異性の場合はどうのような気持ちで接しているか」という質問があり、「親の気持ち、家族の気持ちで向き合っている」ことをお答えしました。他の保護司の方々、更生保護施設の方の発表もそれぞれ、対象者に向き合われ御苦勞をされている様子が伝わってきました。会場からは多くの質問があり、海外の研修員の皆様の保護司への興味、関心の高さがうかがわれました。「ボランティアでとても大変なことを続けるモチベーションは何なのか」という質問が多くの研修員からいろいろな機会で見られました。保護司の皆様は「その人のためになれば」と答えていました。その言葉に対して会場から「愛ですね」

と反応がありました。また、それぞれ失敗したと感じるときにもっと話を聞いてあげればよかったという思いがあると話されていました。保護司として私も同じ思いで対象者に向き合っているということをつかち合えました。

会議終了後の夕食会，懇親会では，アジ研の皆様に通訳をしていただきながら楽しいひと時を過ごすことができました。札幌で一度お会いした研修員の皆様からも声をかけていただき，お話ができたことは大変良かったです。ホテルに戻ってからも他の地域の保護司の皆様と交流ができ日本各地で同じ思いをしながら対象者に向き合っている人たちがいることを実感しました。

2日目は「グッドライブズモデル（GLM）と動機づけ面接」というテーマで GLM の第一人者のディヴィット・プレスコット氏の講演を同時通訳でお聞きしました。性犯罪者の更生に携わっている体験を交えながらお話ししてくださいました。対象者のよりよい人生を考えていくことが大切で，犯罪者であっても夢の実現をともに考えていくことが重要という内容のものでした。私の発表も性犯罪対象者の事例でしたので納得・感心しながらお聞きしました。

今回この研修に参加させていただく機会をいただけたことを，関係の皆様へ感謝いたします。今後の活動において微力ではありますが，今回の研修の経験を生かしていきたいと思っています。最後になりましたが，アジ研の皆様の細やかな心遣いにお礼申し上げます。ありがとうございました。